

第1章 はじめに  
第2章 カンボジアの教育問題とスラム  
第3章 SVA の移動図書館活動  
第4章 アンケート結果  
第5章 強制移転の問題  
第6章 まとめ

## 第1章 はじめに

私は、海外研修プログラムで、2009年2月16日から3月13日まで、カンボジア事務所でインターンを行う機会を頂きました。

今回のインターンで目的としたことは、以下の三点です。まず、一点目に、スラムに暮らす児童の教育の問題に焦点を当て、アンケートを通じて SVA の移動図書館活動を把握すること。また、二点目に、立ち退き問題において、立ち退きが起こった背景や移転後の住民の暮らしを把握すること。さらに、三点目に、教育を含めたスラムの人々の問題に関して、どのような解決への方向性があるかを考えることです。

これらの目的を踏まえて、今回のレポートでは、以下、第2章「カンボジアの教育問題とスラム」、第3章「SVA の移動図書館活動」、第4章「アンケート結果」、第5章「強制移転の問題」、第6章「まとめ」に沿って述べたいと思います。

## 第2章 カンボジアの教育問題とスラム

### 1) カンボジアの教育問題

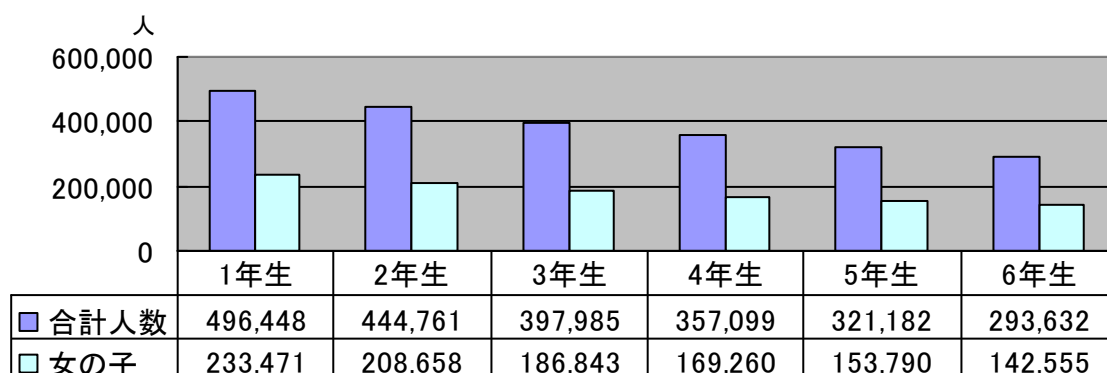
カンボジアの学制は、日本と同様に、小学校6年間、中学3年間、高校3年間、大学4年間です。そして法律上は、中学3年までが義務教育です。しかし、中学、高校への進学率は非常に低く、小学校の途中で学校を辞める子どもも多いのが実情です（図1、2、3参照<sup>1)</sup>。図からは、1年生の入学者数のうち、約20%が留年者だということが分かります。また、1年生のうち、入学しても約20%は留年、約11%が中退しているという現実があります。

---

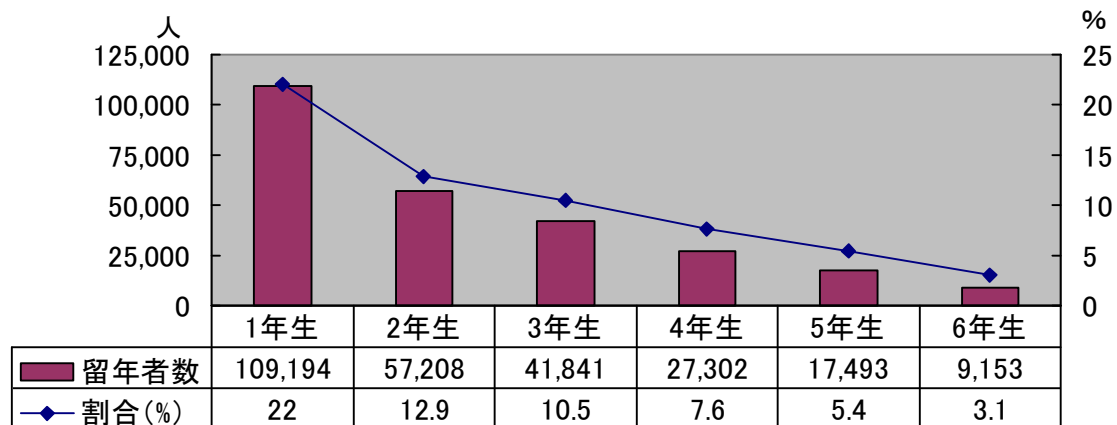
<sup>1</sup> Education Statistics Database, 2007/08; EMIS-Office, Planning Department, Ministry of Education, Youth and Sports. から引用。

このようなカンボジアにおける就学率の低さと、高い退学率の原因として、学校（教室）の不足、教育の質の低さ、児童家庭の貧困などが挙げられます。特に、カンボジアの義務教育は本来無料ですが、教師の給与が低いために、生徒から授業料を徴収したり補修を義務づけて補修料を取ったりすることがあるため、子どもを学校に行かせるには金銭的費用がかかり、それをまかなうことが困難な家計の子どもが（学校に行かずに働くなど）中退を余儀無くされているとも考えられます。<sup>2</sup>

(図1)カンボジアの小学校入学者数

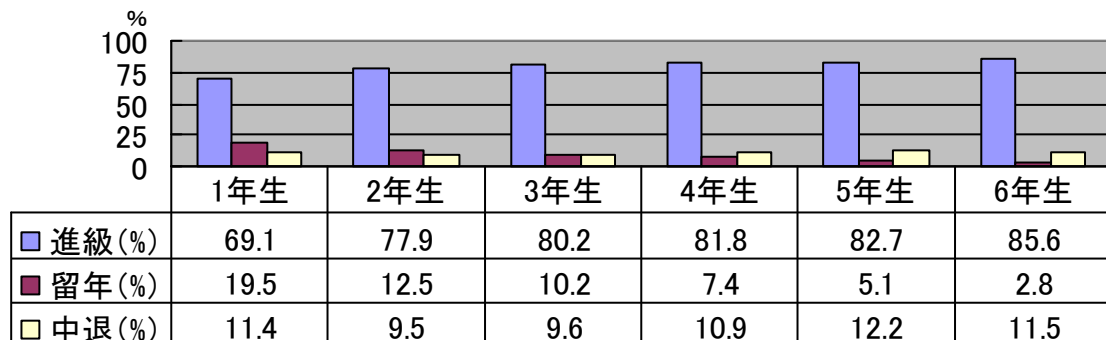


(図2)入学者数における留年者の人数と、その学年における留年者数の割合



<sup>2</sup> 矢倉研二郎『カンボジア農村の貧困と格差拡大』（昭和堂）475頁。

(図3)各学年の学生の行方



## 2) カンボジアのスラム

カンボジアのスラムは、ポルポト時代が終わった1979年から1980年ごろから出来始め、現在、首都プノンペンだけでも700ヶ所を超えるスラムがあるといわれています。スラムで暮らす人々は、日雇い労働、市内でのバイクタクシーの運転手、市場での物売りなどをして生計を立てていますが、失業者もいます。

そして、スラムに暮らす子供たちの多くは、教育の欠如、栄養不足、感染症への危険など数多くの問題に直面しています。教育に関して言えば、公教育を受ける機会がない子も多数存在し、ノンフォーマル教育を受けることが出来ても、質が低いという問題もあります。<sup>3</sup>

## 第3章 SVAの移動図書館活動

### 1) 同行日程

SVAは現在、定期的に10ヶ所のスラムを訪問(月2回)し、移動図書館活動を行っています。移動図書館活動は、まず体操やゲームから始まり、続いて絵本や紙芝居の読み聞かせ、自由読書時間という内容で行われます。絵本には、カンボジアで出版される絵本と、日本の絵本があります。

私は、以下の日程で、スラムへの移動図書館活動に同行させて頂きました。

日程	スラム名
2月16日(月)	Rokar Kos

<sup>3</sup> SVA「2009年 カンボジア スラム移動図書館活動 移動図書館ご支援のお願い」

2月17日(火)	Phum Andoung
2月26日(木)	Akpiwat Meanchey
2月27日(金)	Damnak Troyeang (PIO=People Improvement Organization の支援あり)
3月2日(月)	Beoung Tumpun
3月3日(火)	Chombok Thom
3月4日(水)	Damnak Troyeung (PIO の支援あり)
3月5日(木)	Anlunkgnan
3月6日(金)	Phum Russey (JLMM の支援あり)
3月9日(月)	Akpiwat Meanchey
3月10日(火)	Toul Chey (PSE の支援あり)
3月11日(水)	Rokar Kos
3月12日(木)	Steang Mean Chey (PIO の支援あり)
3月13日(金)	Phum Russey (JLMM の支援あり)

\*なお、2月24日(火)、2月25日(水)は、story telling (お話し大会)に参加。

## 2) 移動図書館に同行して

プノンペン近郊のスラムを移動図書館で同行させて頂き、まず私が感じたことは、子ども達の絵本に対する知的好奇心の高さです。SVA の図書館車が来たのを見て、笑顔で駆け寄ってくる子や、率先して紙芝居などの読み聞かせの準備を手伝ってくれる子がいるのを見て、絵本をどれだけ楽しみにしてくれているかということを感じました。

また、自由読書の時間では、絵本を音読しながら読む子もいる一方で、まだ文字を読めずに、パラパラめくりながら読む子もいます。移動図書館活動は、どちらの子どもにも有効で、読み書きが出来る子にはさらに学ぶ意欲を向上させ、まだ読み書きが出来ない子には、絵本という存在が識字へと導く良い機会になっていると思います。

特に私が好きだった時間は、子どもが自主的に発表したいと手を挙げて、自らみんなの前で歌を歌う時間でした。子どもは恥ずかしそうにしながらも、歌い終わると自信と喜びに満ちた表情で自分の席に戻っていきます。決して目に見える明らかな効果とは言えないかもしれませんが、子どもの教育には、こうした地道でも丁寧なサポートが必要で、こうした活動が子どもの心身の成長へと、日々積み重なり、やがて大きな影響を与えるのだと思いました。

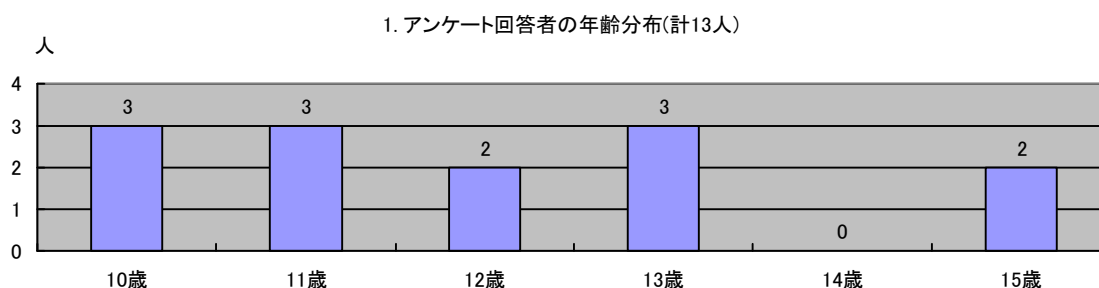
私が訪問したスラムの中では、Damnak Troyeung (2/27 訪問) と Steang Mean Chey (3/12 訪問) の2つのスラムは、PIO (People Improvement Organization)から教育面での支援を受けていました。英語教育も実施されており、英語で話しかけてくる子どももいました。

また、Phum Russey (3/6, 3/13 訪問) は、JLMM (日本カトリック信徒宣教者会) から支援を受けています。私は、実際に JLMM の事務所を訪問させていただき、現場での豆乳プログラムの様子も拝見させて頂くことができました。

#### 第4章 アンケート結果

今回の滞在中、スラムの子供たち 13 名と大人 1 名<sup>4</sup>にアンケートを実施することができました<sup>5</sup>。この章では、アンケートから分かったことを述べます。

##### 1) 子供たち 13 名 (男 : 6 名、女 : 7 名) へのアンケート<sup>6</sup>



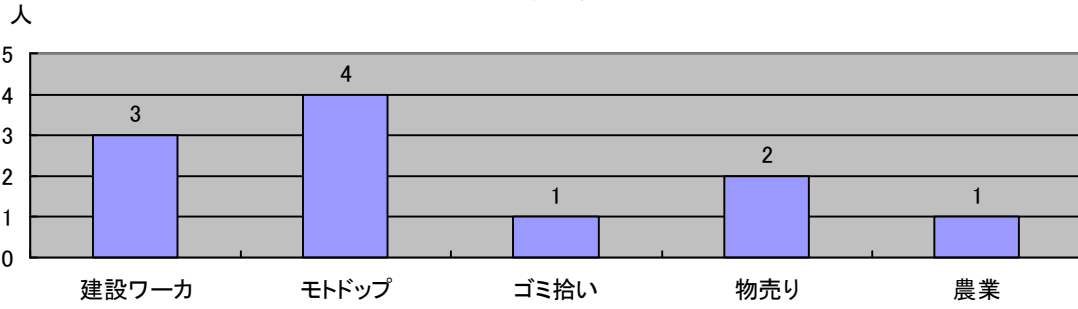
<sup>4</sup> 子どもは、2月27日(5名)、3月2日(2名)、5日(2名)、9日(2名)、11日(1名)、12日(1名)の合計13名。大人は、5日の1名。

<sup>5</sup> アンケート実施の際には、SVAのステラスタッフに手伝って頂いた。英語で準備した質問に対して、ステラスタッフがクメール語で質問をし、その回答を英語で記入するという形でアンケートを取った。反省点として、私のアンケートは、オープン形式の質問が多かったため、時間がかかり、サンプル数が少なくなってしまった。仮にクメール語の選択式アンケートを配布するという形式でアンケートを行えば、サンプル数が増え、かつそれぞれのスラムの特徴まで分析することが可能だったのではないかと反省しています。

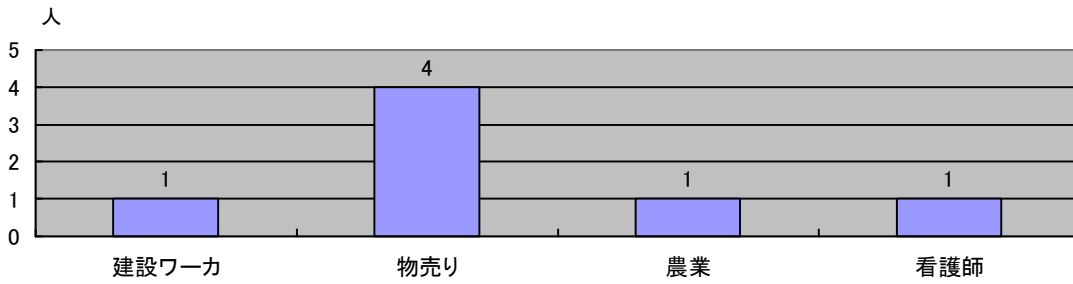
また、スラムによって特徴が大きく異なるため、効果的なアンケートを実施するには、なるべく1つのスラムに限定してデータを分析するか、もしくは特徴が近いスラム同士で比較する必要があります。

<sup>6</sup> 一部、同じ質問を必ずしも全員に行うことができなかったため、回答総数が13とは限らない。また、アンケート実施のスラムに偏りがある。

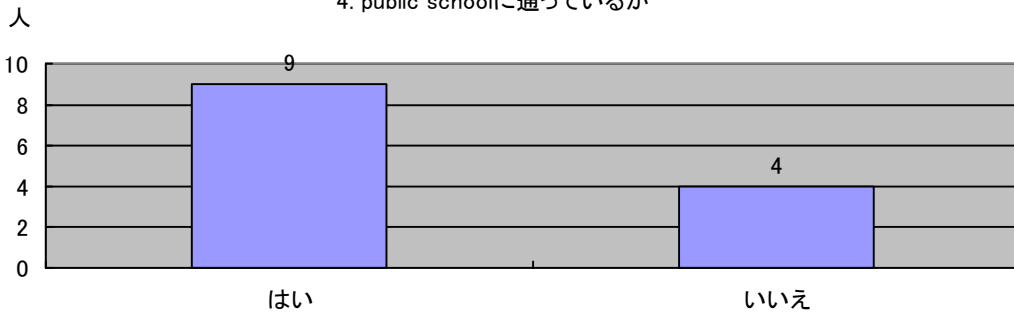
## 2. 父親の職業



## 3. 母親の職業

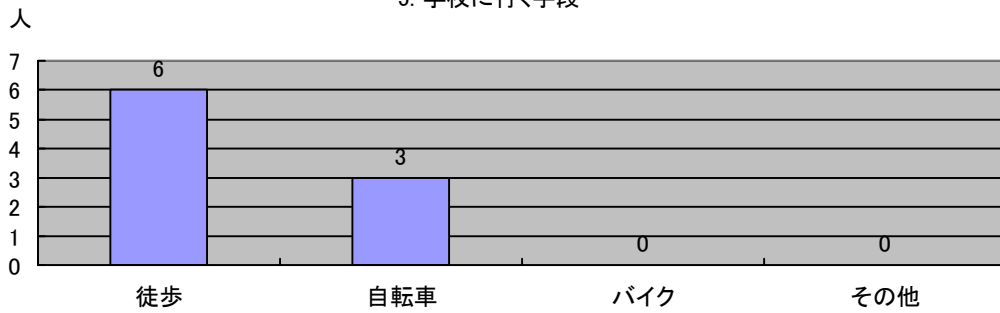


## 4. public schoolに通っているか

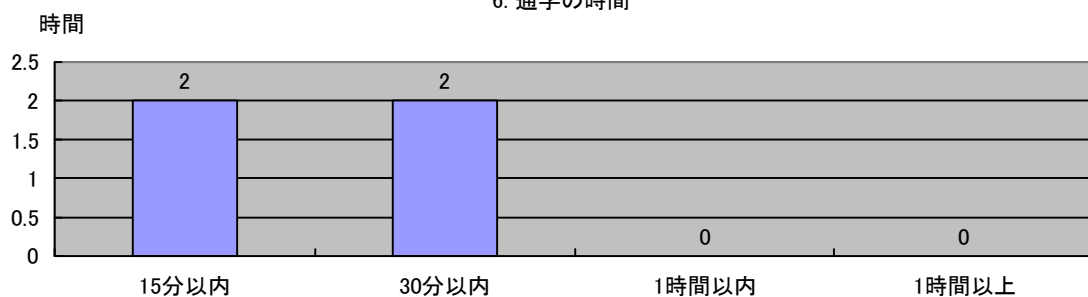


「はい」が69%、「いいえ」が31%となっている。

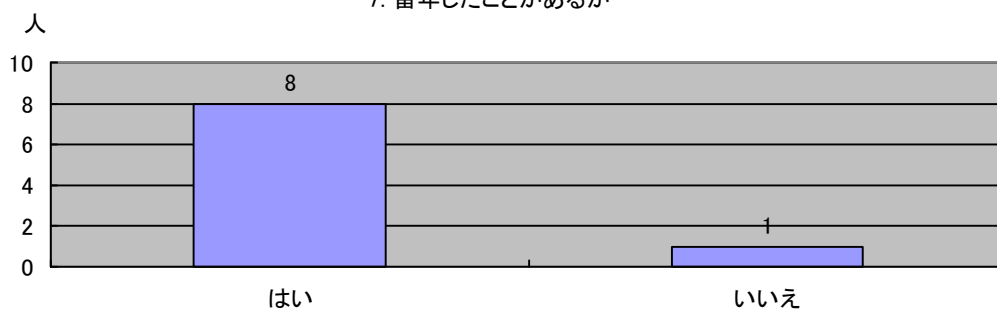
## 5. 学校に行く手段



### 6. 通学の時間

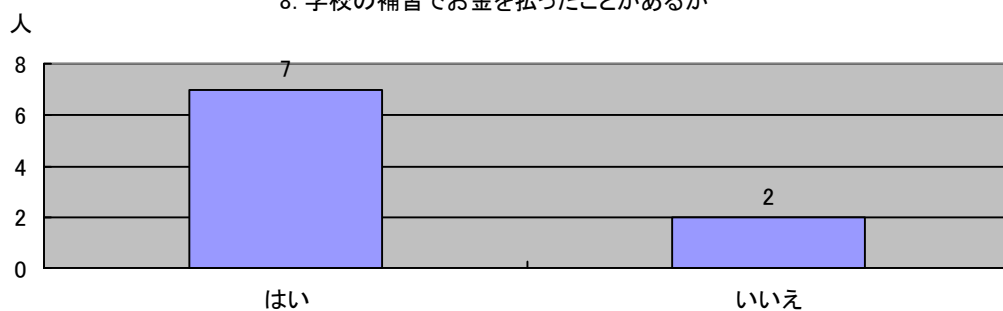


### 7. 留年したことがあるか



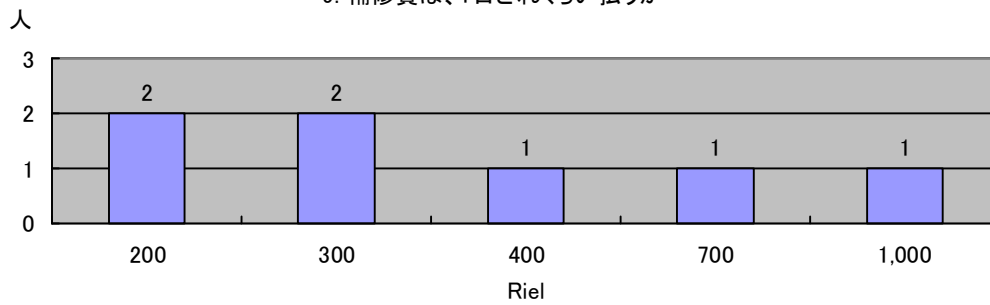
「はい」が89%、「いいえ」が11%となっており、今回のアンケートでも留年率の高さが問題となっていることが伺える。

### 8. 学校の補習でお金を払ったことがあるか

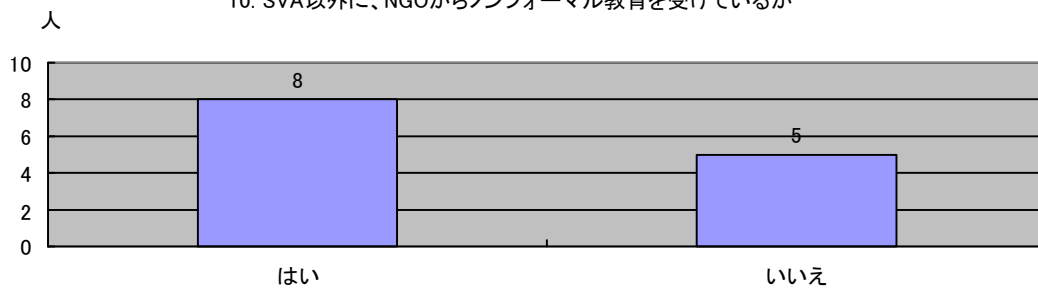


「はい」が78%、「いいえ」が22%となっており、たとえ学校に行けたとしても、補修費が負担となる可能性がある。

9. 補修費は、1日どれくらい払うか

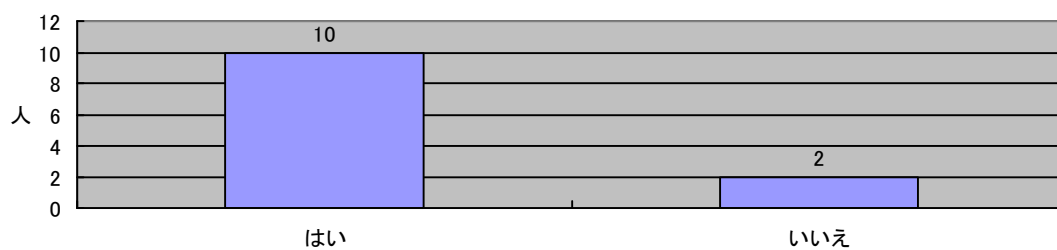


10. SVA以外に、NGOからノンフォーマル教育を受けているか

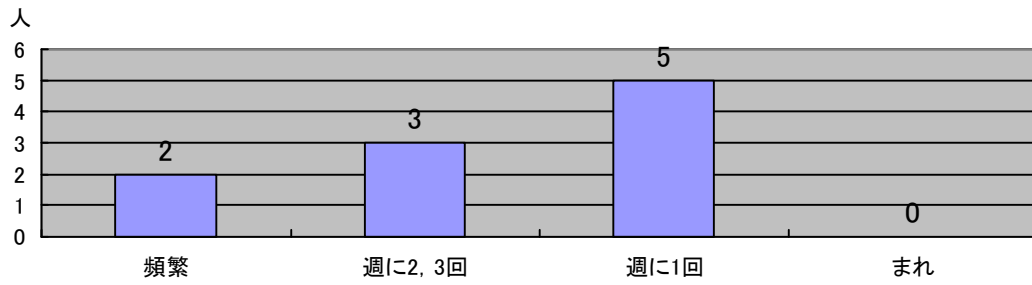


具体的には、PIO が 6 名、CVCD (Cambodia volunteer community development)が 1 名、PSE (Pour un Sourire d'Enfant)が 1 名であった。

11. 本を読む機会があるか

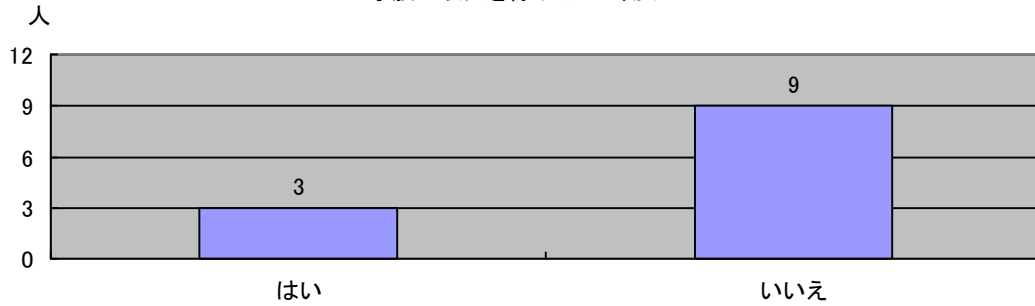


12. どのくらいの頻度で本を読むか



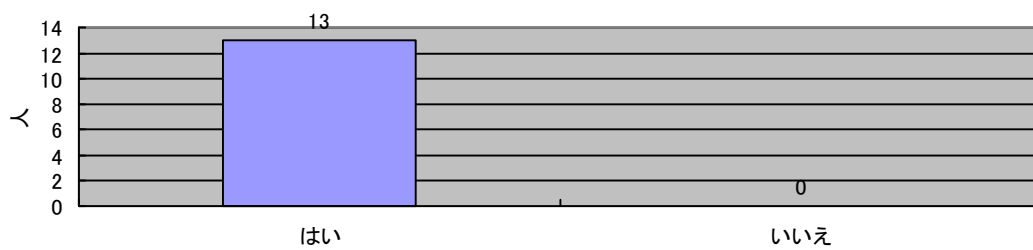
本を読む機会は一応あるものの、その機会があまりに少ないということが伺える。

13. 家族の収入を稼ぐために働くか

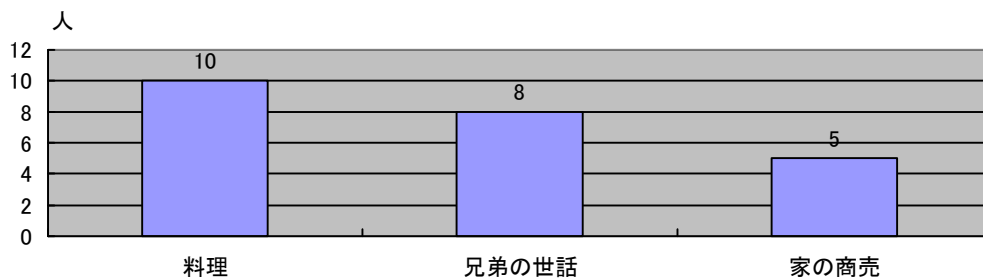


「はい」と答えた 3 人の子どもは、物売り、ゴミ拾い、親と時々働く、という回答だった。

14. 家の手伝いをするか



15. お手伝いの内容(複数回答可)



お手伝いをする子どものほとんどが、毎日何かしらのお手伝いを行っている。

## 2) 大人 1 名へのアンケート

3月5日、Anlunkgnan という移転後のスラムで暮らす 27 歳の女性にアンケートを行いました。彼女は、2002 年に Basak river slum から移ってきました。夫と 2 人の子どもを含んだ 4 人家族で、夫が建設ワーカーとして働いており、1 日平均 13,000 リエル稼ぐそうです。

彼女は、「強制移転を受けたが、政府や企業からは、満足のいく補償を受けていない」、「移転前は自身の商売があり、十分な食べ物もあり、生活しやすかった。しかし、移転後は、十分な食べ物、水、電気もなく、病院からも遠い。また、自身の商売もないため、生活が困難である」と述べていました。さらに、スラムの自治組織は存在するが、ほとんどミーティングが行われず、機能していないとのことでした。こうした強制移転の現状を第 5 章で取り上げる。

## 第5章 強制移転の問題

### 1) 強制移転の現状と問題

プノンペンにあるスラムは、700 ヶ所を超え、40 万人以上がスラムの居住者だと言われている。そして、これは人口 140 万人のプノンペンの 30%を占め、毎年 2 万人がスラムに流入しているともいわれている。

カンボジア政府は、近年、増え続けるスラムの居住者を、都市開発に伴い、市街地から郊外へ移転させるケースが増えている。カンボジア政府は、これらの土地に住む住民は国有地に住む違法居住者であり、また町の景観や美化を損ね、社会不安をつくっていると、「経済発展と貧困削減」の名のもと、強制立ち退きを正当化している。しかし、これは単に貧困地域を郊外に移しただけであって、移転後の地域には、電気や水道、学校など基本的なインフラが未整備であり、生活環境も良くない。そして、市内まで遠すぎて仕事もないため、またスラムに立ち戻ることも多いという。

具体的には、2006年5、6月、プノンペンで最大のスラムの1つであったバサックスラムの行政主導による強制移転に伴い、3,000世帯が生活の場を奪われ、インフラがほとんど未整備なプノンペン郊外への移動を余儀なくされた。<sup>7</sup>

その際の問題点としては、(1) 移転に関して住民に十分な説明がなく、合意が得られないうまま、移転が強行された。(2) 住民の移転リスト作成、土地配分にかかわる賄賂などの疑惑。(3) 間借りしていた住民が約1ヶ月もの間、劣悪な非人間的な環境に放置された。(4) 間借りしていた住民に対するNGOなどの外からの支援を行政が禁止した。(5) これまでの移転のケーススタディーが生かされず、まったくNGOなどとの協力を求めることなく、移転が性急に開始された。(6) カンボジアの人権NGOは連携してアドボカシー活動を展開したが、住民への緊急支援に関してNGOの連携は十分ではなかった。などが挙げられる。<sup>8</sup>

## 2) 強制移転のこれから

スラム問題に関する対策案として、例えば以下のことが考えられる。

まず、1つ目に、日本や国際機関などのドナーに対して、適切な移転政策が作られるまでは強制立ち退きを行わないようカンボジア政府に働きかけることを粘り強く求めることである。それには、移転計画を開示し、スラムの住民の詳細な社会経済調査をおこなうこと、移転の場合には適切な補償を実施すること、暴力の使用をやめることも含まれる。

2つ目に、スラム住民の組織化（エンパワメント）を進めることである。例えば、10年前までは移転問題で流血事件が起きていた隣国のタイは現在ではほとんど強制移転を行っていない。その背景には、住民の組織化、意識改革によってスラムの住民自身が力をつけたこととともに、マスコミなども積極的に取材して、タイ社会がスラム問題を認識し、政府も方針を変更せざるを得なくなったということがある。<sup>9</sup>

## 第6章 まとめ

私の今回のインターンの目的は、1. 「スラムに暮らす児童の教育の問題と、SVAの移動図書館活動の把握」、2. 「立ち退き問題が起こった背景や移転後の住民の暮らしの把握」、3. 「教育を含めたスラムの人々の問題に関して、どのような解決への方向性があるかを考える」でした。

まず、1. 「スラムに暮らす児童の教育の問題と、SVAの移動図書館活動の把握」では、アンケートを通じてスラムで暮らす児童の現状が少しではありますが分かりました。しかし、例えばスラムとその他の地域の児童の違いなどが把握出来ず、課題として残りました。

---

<sup>7</sup> SVA「2009年 カンボジア スラム移動図書館活動 移動図書館ご支援のお願い」

<sup>8</sup> SVA資料「バサックスラム強制移転と問題の背景」。メコン・ウォッチ資料。

<sup>9</sup> SVA資料「バサックスラム強制移転と問題の背景」。

また、訪問した各スラムでも特色があり、それを整理するまでには至りませんでした。

SVA の移動図書館活動については、本を読む機会の少ない子供たちにとって、非常に貴重な機会となっているだけでなく、読書が様々な学びへの意欲向上につながっていると感じることができました。また、SVA がスラムでこうした活動を行うには、住民委員長の許可が必要と伺いました。移動図書館がきっかけとなり、スラム全体を巻き込むことで、そのスラムの情報や調査を行えるようになるだけでなく、さらには次の活動へのステップとしてつながっていくことも考えられるのではないかと思います。

次に、2.「立ち退き問題が起こった背景や移転後の住民の暮らしの把握」では、移転後の住民一人に話を伺うことが出来ました。また、立ち退き問題の背景も分かりましたが、なぜ農村から都市へ出てくるのか、農村の生活では何が問題となっているのかという根本的な背景を把握出来ていないことが課題として残りました。

さらに、3.「教育を含めたスラムの人々の問題に関して、どのような解決への方向性があるかを考える」については、大変難しい問題であり、なかなか解決案が見つかりませんでした。農村から仕事を求めて、都市へ移ってきたが、仕事も見つからず、家族と共にスラムで暮らしてきたという一連の動きがあります。スラムでの苦しい生活に加えて、カンボジア政府による郊外への強制移転によって、ますます苦しい立場に置かれ、子どもの教育を受けるチャンスを一層減らす結果となっているのです。このような悪循環の連鎖を断ち切るには、先ほども述べたように、カンボジア政府が適切な対策を取っていくように求めていくことや、スラム住民の組織化（エンパワメント）が効果的ではないかと思われます。

[参考]

#### Questionnaire for children

Date: \_\_\_\_\_

Name of slum: \_\_\_\_\_

Name of interviewee: \_\_\_\_\_

● Interviewee Profile

A1 Sex:  male  female

A2 Age: \_\_\_\_\_ years old

A3 Are you literate?

Reading  Yes  No

Writing  Yes  No

Arithmetic  Yes  No

English  Yes  No

A4 How many members in your family? \_\_\_\_\_ members

A5 What is your parent's job?

Father --- \_\_\_\_\_

Mother --- \_\_\_\_\_

● Educational Background

B1 Are you enrolling to public school?  Yes  No

If no, please skip to B10.

B2 What is the public school you are enrolling? \_\_\_\_\_

B3 What grade are you enrolling? \_\_\_\_\_ grade

B4 At what age did you enroll your first class? \_\_\_\_\_ age

B5 What is your mean of transportation to school?

on foot  motorcycle  bicycle  others

B6 How long do you take time from your home to school?

within 15min  within 30min  within 1hour  more than 1 hour

B7 Have you ever repeat class?  Yes  No

B8 Do you have to pay money for extra class at school?  Yes  No

If no, please skip to B10.

B9 If you must pay, how much money do you pay per day? \_\_\_\_\_ Riels

B10 Do you receive any non-formal education from NGO?  Yes  No

If no, please skip to B12.

B11 What is the name of NGO? \_\_\_\_\_, SVA (NGO)

B12 How many times have you attended the mobile library activities? \_\_\_\_\_ times

B13 What is your impression toward the mobile library?

Very good  Good

So so  bad

● Opportunity to read books

C1 Do you have opportunity to read books?  Yes  No

If no, please skip to D1.

C2 If you have, where do you often read? \_\_\_\_\_

C3 If you have, how often will you read books?

- Very often       2-3 times a week       Once a week  
 rarely       Do not know

● Child Labor Situation

D1 Do you work to generate income for your family?  Yes  No

If no, please skip to D7.

D2 If you work, what kind of work?

- Scavenging       Selling goods  
 Others ( \_\_\_\_\_ )

D3 Do you like to work or not?  Yes  No

Why? \_\_\_\_\_

D4 How often do you work?

\_\_\_\_\_ days/week

\_\_\_\_\_ hours/day

D5 How much do you earn per day in average? \_\_\_\_\_ Riels

D6 How do you use to the money?

- Give all to parents       Give some to parents  
 Keep for yourself all       Others ( \_\_\_\_\_ )

D7 Do you help household work in your family?  Yes  No

If no, end the questionnaire.

D8 If you help, what kind of work?

- Cooking       Looking after sibling       Family business  
 Others( \_\_\_\_\_ )

D9 How often do you help?

\_\_\_\_\_ days/week

\_\_\_\_\_ hours/day